

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	奈良県	事業実施主体	十津川村	地域再生計画名	地域の共存と交流による活力あるふるさとづくり計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	十津川村建設課長 大前貴広		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	基準年度	年度	中間実績	基準年度	基準年度		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	法面対策必要箇所数	3箇所	R1	2箇所	R4	2箇所	0箇所	R6	○	3	3	中間目標値に達しており、目標達成の見込みである。
	指標2	橋梁修繕必要箇所数	2橋	R1	0橋	R4	0橋	0橋	R6	○	3	3	既に最終目標値を達成している。
	指標3	森林施業地への所要時間	25分	R1	15分	R4	15分	5分	R6	○	3	3	林道高滝線の開設は、計画整備量に達することはできなかったが、進捗のフォローアップにより計画所要時間に達したと考えられる。 (R3年度～R4年度 路盤工の施工により車両の走行性・安全性が向上されたと考えられる。)
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度 (R4)	最終実績 見込み								
特別措置を適用して行う事業	村道整備事業（整備延長）		611 m	281 m	611 m	計画に対し、路線延長から見る進捗率は、46%となっている。地域環境の改善や観光客誘致等のため、引き続き整備を実施していく。							
	林道整備事業（整備延長）		827 m	374 m	827 m	計画に対し、路線延長から見る進捗率は、45%となっている。森林整備の推進等のため、引き続き、計画に則した整備を目指していく。							
その他の事業	間伐事業		林道高滝線内において村有林事業の実施			R4年度に林道高滝線内にある村有林において、間伐事業を実施 車両系システムによって木材が搬出された。林道施設である林業作業用施設も活用された。							
	道路改良事業		生活や産業の基盤となる村道整備の実施			災害時の迂回路機能を有する村道改良の実施、および道路未整備地区における村道開設により住民生活の利便性が向上されているとともに、産業振興に結び付くことが期待される。							
	観光振興事業		広域観光PR事業の実施			インバウンドをターゲットに大阪府泉南市・和歌山県田辺市と連携し、紀伊半島を周遊し世界遺産「紀伊山系の霊場と参詣道」と温泉を体験するPR事業を行っている。今後は結果を分析するとともに、インバウンドの受け入れ態勢を強化したい。							
計画外で独自に実施した事業	十津川村公園事業		村外におけるイベント実施			奈良市ならまちセンターにおいて、十津川産材を使った遊具を設置し、都市部の親子が木のぬくもりを体験することにより、十津川の林業PRにつながったと考えている。							
	足湯事業		県内における出張足湯実施			県内におけるイベント会場において、村の温泉を利用した出張足湯を行い源泉かけ流しの温泉をPRすることにより、誘客につながると考えている。							
③評価方法	地域再生計画に記載した数値目標に関する部署および関係団体代表により、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。												
④中間評価の公表方法	十津川村のホームページに掲載												
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した村道と林道整備を一体的に実施し、観光事業において、中間年度の目標に対して釈迦ヶ岳登山客数では約1,000人、玉置神社に関しては約20,000人の増であり、効果を発揮している。林業事業においては、皆伐後の再造林コストの増加と保育管理を行う山業労働者不足などにより、素材生産量は伸び悩んでいることから、林業従事者数増加に向けた条件整備や高効率化による出材量増大を図らなければならない。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）												
	令和5年度予算要望額への反映（有・無）												
	有りの場合の増減額 千円												
⑦今後の方針等に対する対応	本地域再生計画については、事業が円滑に進んでおり、引き続き計画に則した整備を実施することにより、観光客数の増加や、村内原木生産量の増加については地域活性化につながるものと考えている。このため、効果発現に向けて引き続き事業進捗を図り、目標の達成に努める。												